

令和4年度 第1回浦安市郷土博物館協議会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 令和4年8月9日（火） 14時～16時
- 2 開催場所 郷土博物館 視聴覚室
- 3 出席者
（委員）明保治男委員長、舘里枝副委員長、大村洋子委員、鈴木孝一委員、吉野忍委員、男全寛子委員 欠席1名
（事務局）金子館長、島村副主幹、尾上主任学芸員、中川主査、林主任学芸員、袖山（記録）
（傍聴人）3名

4 議 事

1. 開会

- （1）委嘱状の交付について
- （2）委員長あいさつ
- （3）教育委員会あいさつ

2. 議 事

- 報告事項
- （1）令和3年度 郷土博物館事業報告について
 - （2）令和4年度 郷土博物館事業実施計画について
 - （3）郷土博物館展示リニューアルについて
 - （4）博物館法の一部改正について

5 会議経過

会議に先立ち、新任である鈴木委員に委嘱状の交付を行った。交付後、明保委員長があいさつを行い、その後、鈴木教育長があいさつを行った。
その後、委員、事務局の自己紹介を行った。

議 事

（1）令和3年度 郷土博物館事業報告について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

（委員）課題への取り組みとして、文化財団体の支援、伝統文化の後継者育成とあるが、具体的な案はあるのか。

（事務局）博物館のホームページに保存会の活動動画を掲載しているほか、会員募集の記事を作成中である。そのほか、メディアへの紹介や国・県のイベントの紹介などを通じ、活動機会の提供や会員募集支援を行っていく。
また、博学連携事業においても、伝統文化の学習について協力できる旨を学校に伝えており、9月には浦安雛子保存会の演奏会を開く予定である。小学校4年生の社会科で伝統芸能について学ぶほか、音楽科にも「ちいきにつたわる音楽に親しもう」という単元があるため、ホームページに掲載している動画を活用して授業を行ったという話も聞いている。博物館としても引き続き積極的に周知し、児童生徒にも興味を持ってもらいたい。

(委 員) もやいの会の活動状況はどうか。

(事務局) 開館時から元漁師を中心としたボランティアに協力をいただいているが、新型コロナウイルスの影響により、来館者や児童生徒と実際にふれあう機会をつくるのが難しくなっており、また高齢化も課題となっている。ジュニア学芸員などの制度を設け、新しい担い手の育成を目指している。また、元漁師だけでなく、市民団体やNPOにも協力をしていただき、引き続きボランティアの育成を行っていく。

(2) 令和4年度 郷土博物館事業実施計画について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委 員) ジュニア学芸員について、認定を受けた後はどのように活動を行うのか。

(事務局) 活動形態は二つあり、一つ目は、日常的に博物館に来館し、未就学児や小学校低学年の児童に昔遊びを教えるなどの来館者対応である。二つ目は、イベントの際に博物館から募集をかけ参加する運営補助であり、3年度は、11月のオータムフェスタと1月の正月遊びで実施した。正月遊びについて調べ、来館者の年齢に合わせて説明を行うなど、自主的に工夫して活動を行っている参加者もいた。講座が始まってまだ1年ではあるが、参加者の成長を感じており、4年度も同じように活動して行ってほしいと思う。

(委 員) ジュニア学芸員の中学生の割合はどれくらいか。

(事務局) 認定者42名のうち、中学校2年生が3名、中学校1年生が4名となっている。
時間のある時には、いつでも参加できる旨声掛けを行っているが、2年生の3名は定期的に活動している。

(委 員) ふるさと浦安作品展について、出展数が減っているのか。

(事務局) 中学校では、2年生の地域学習と関連付け、積極的な参加を促している。作品の内容の充実を図るため、博物館活用推進委員会を中心に、作品作りのアドバイスをする動画を作成し、学校の授業で使ってもらえるよう教員に周知している。小学校については、自由参加の学校が多い。
昨年度に比べて親子で博物館を訪れている来館者が多い印象である。作品づくりに関しては、家族で協力し、会話をしながら取り組んでほしいと伝えており、数は少なくなったとしても充実した活動になっていると感じている。

(3) 郷土博物館展示リニューアルについて

配付資料に基づき、事務局より説明した。
主な質疑・応答については、下記のとおり。

(委 員) 3DやVRといった最先端の技術は使うのか。

- (事務局) 検討はしたが、広く多くの市民の方に何度も来ていただくために、資料を中心とした展示とし、VRなどの技術を使用する予定はない。
- (委員) 既存展示の、浦安弁のコーナー（ことばの収蔵庫）が好きだった。この映像はどうなるのか。
- (事務局) 既存の映像やコンテンツは博物館資料として保存し、これからどのように活用していくかを検討していく。
- (委員) 「新しいまち」ゾーンについて、開館から20年の中の変化として、液状化がある。液状化は浦安の埋立地特有なことであり、今後も伝えていくべきものであるため、展示の中で学ぶことができると良いと思う。
- (事務局) 液状化は勿論、その後市民の協力のもと復興し、災害に強いまちづくりを行っていることなども含め、「新しいまち」の大型映像や壁面グラフィックに入れていく。
- (委員) コンセプトの一つに、「いつ来ても新しい発見がある」とあるが、展示替えなどについてSNSなどで発信する予定はあるのか。
- (事務局) SNSの導入については、3年度に一度検討を行ったが、博物館の運営にそぐわない部分があり、引き続きホームページを活用していくということになった。これからリニューアルの特集ページを作成していき発信していきたい。
- (委員長) リニューアルの機会には、入館料の徴収について課題となるようだが、どのような考えがあるか。
- (事務局) 博物館法では、原則として、公立の博物館では無料とすることが規定されており、本館も現在無料である。今回の展示リニューアルでは、埋め立て事業以降のまちの歴史・文化に触れる機会をつくるため、これまでのように多くの方々に、来館してもらい学んでいただきたいと考えており、入館料を徴収すると入館者が減るということも懸念される。
また、近隣市の状況としては、入館料は無料で、企画展については、展示内容の充実を図ることを目的として、観覧料を徴収できるようにしているところが多い。入館料については、課題として引続き考えていくことになるので、委員の皆様にご意見をいただきたい。
- (委員長) 近隣では有料のところもあるが、本館のロコミなどを見てみると、入場無料を特徴として紹介していることが多い。子どもと頻繁に訪れているというロコミもあり、無料のままが良いのではと考えている。
- (委員) 自分が観光地で博物館を見つけた際、有料だと見ないということもあるので、入館者数を考えると無料の方が良いと思う。企画展では観覧料を徴収できるようにするという話もあるとのことだが、料金に見合った企画や展示であることが大事だと思う。
- (委員) 本館の設立の趣旨から考えれば、無料で市民に提供していくべきであると考え。博物館は入館料無料のところが多く、企画展に関しても、借用資料などがあるなら別だが、基本無料が良いと思う。様々な人が来館し、浦安について知ってもらうということが大前提であり、有料になると来館してもらえなくなることもあると思う。
- (委員) 「新しいまち」ゾーンができ、新たに埋立地区の住人の入館が見込める中で、有料だと足が遠のくのではないか。また、本館は小学生が学びながら遊べる場なので、無料の方が子どもたち同士で遊びに来られると思う。
- (委員) 子どもはお金を持って遊びに出かけないため、無料の方が良いと思う。有

料にすると観光地化し、館のコンセプトが変わってしまう。

- (委員) 本館は、いつ来ても子どもたちの影があるのが特色であり、気軽に遊びに行ける、親しみがある館であるということをどんどん広げていきたい。収益などの問題に関しては、刊行物などで対応し、入館料を取るのとは違うのではと思う。
- (委員長) 本館では、博学連携事業を中心として、学校や児童生徒の利用も盛んであり、また、平日に授業で来館した児童生徒が、土日に家族を連れて再来館するというようなサイクルが生まれ、多くの来館者が訪れている。リニューアル後も広く利用してもらうためには、入館料を徴収しないほうがよいのではないか。
- (委員) 本館の良さというのは人と人とのつながりであり、もやいの会のボランティアが子どもに教えたり、来館者と話ができるというのが魅力になっている。ボランティアの高齢化が課題とのことだが、ジュニア学芸員を活かしながら、いつ来ても色々な人が関わってくれる、一緒に体験が出来るというような、本館の特色はなくさないでほしい。
- (委員) 浦安には、水害で失われてきたため文献史料がない。当時の声など、形がないものを形にして残してきたのが本館である。ジュニア学芸員など、長期的な展望ももちろん必要であるが、漁師町時代を知る方たちの生の声を集め、生きた記憶を数年のうちに形にすることを喫緊の課題としてほしい。
- (事務局) 昨年、「黒い水事件」について、元漁師の方にインタビューし、中学校の教員がまとめたものをホームページに掲載している。当時の浦安の様子や、当人しか聞けない話、教科書には載っていない生の声について、子どもたちをはじめ、一般の方にも見ていただきたい。
- (委員) 浦安は狭いながら地域ごとに特色があるのが面白いが、それが当たり前のことだったために、記録には残していないということもある。博物館でイニシアチブをとって、形に残してほしい。
- (委員) 以前博物館で古文書を解読するサークルがあったが、浦安には史料がなくとも、近隣には残っているということもある。博物館で、古文書の解読などを行っていくのも浦安の歴史を知るうえで重要なのではと思う。
- (委員) 寺社の住職は、言い伝えとして残っている話などをよく知っている。聞いてみるのもよいと思う。

(4) 博物館法の一部改正について

配付資料に基づき、事務局より説明した。
質疑については、特になし。

閉会

以上をもって、令和4年度 第1回浦安市郷土博物館協議会は、閉会した。
閉会后、企画展「もっと知りたいふるさと浦安」の視察を行った。